

あわら市長選挙立候補予定者

公開討論会 抜粋資料

開催日：令和4年1月13日
主催：(公社)三国・芦原・金津
青年会議所
文責：AWARA AMAZING ACTION

自己紹介

中川候補（以下中川）

加納病院院長。千葉市で育った。東北大学卒業後、NTT入社。その後福井医科大学に入学し外科医に。今の市政は不平等、非効率。これを正すため今回市長選に立候補した。

理想とする街は、自由、多様性があってデジタル化が進んだスマートシティ。

佐々木候補（以下佐々木）

芦原出身。一橋大卒業後大野、県、59歳県庁退職し市長に。6人家族。愛犬1匹。ウォーキング、剣道。剣道で忍耐力、突破力、人との和を重んじることを学んだ。

森候補（以下森）

昨年6月まで議会 3期12年。市議会議長。議員時代から感じていたが、自分の考える行政のあり方と、自分の理想との違いを感じるようになった。金津地区区長会から要請され立候補。

旧金津町出身。大学時代を除きずっとあわら。育ててくれたあわら市に恩返ししたいと考え立候補。



テーマ1

コロナ渦中、アフターコロナにおけるあわら市の新幹線開業に向けた取り組みについての考え

佐々木

あわら市にとって新幹線開業はビッグチャンス。その効果を市内全体に広げることが大事。福井県の北の玄関口として利用者の利便性を図ると共に市民が集い憩いの場となるように駅周辺の賑わい作りが大事。現在駅周辺の整備を着々と進めている。利用者の利便性のため立体駐車場完成、今後増加が予想されるビジネス客のニーズに応えるためのビジネスホテル建設開始、新たなランドマークとなる賑わい施設「アフレア」といった施設整備をしっかりと進める。

円滑な運営、効率的な活用、バス、レンタカー、レンタサイクルなどの二次交通の充実を図り周辺広域観光施設となるよう市民と協力していく。

森

箱物は作るより運用が大事。一年開業延期となったので、施設の持続可能な運用方法を市民と議論したい。竹田川の開発が手付かずになっている。芦原温泉駅と竹田川の間を歩ける空間へと整備、賑わい作りを進めたい。駅近隣の商業エリア。aキューブを屋台村みたいに整備するとか、空き店舗を新たなショッピングゾーンにできないかななどの民間の動きを活発にする環境づくり体制づくりに取り組む。

中川

コロナへの対応を考えても、あわら市はデジタル化を進めるべき。駅名を「あわら三国駅」に。水陸両用バスでアクセスをよくする、自転車道を整備しエコ的な移動手段。竹田川を中心に水の都に。あわら市だけでは規模が小さいので坂井市との合併がポイントになる。祭りは、山車を出すものはやめて川で屋台船などを使った立体的な祭り。北潟湖の開発。東京へのPR。



テーマ1

コロナ渦中、アフターコロナにおけるあわら市の新幹線開業に向けた取り組みについての考え

中川

観光以外の面で、人口を増やすためには、教育無料やデジタル化、災害に強くする、再生エネルギー、リサイクルを行う、夫婦別姓、同性パートナーシップなど。保守的な北陸の中で唯一の先進的なスマートシティにして差別化すべき。

佐々木

新幹線開業効果は駅周辺だけではない。市内の色々な観光資源に磨きをかけて誘客、活性化に繋げることが大切。観光振興戦略をベースにやっていく。人の育成（観光創造マイスター）。地域づくりの核となる人をしっかり育てる。

森

開業までの2年。本来なら市民の間でもっと盛り上がりがあるべき、市と市民の間に隔たりがあるように思うので、しっかり話し合いをしたい。



テーマ2

少子高齢化社会に向けた対策について

森

子育て支援センターや、放課後こどもクラブの充実。学校給食の無償化。若者の出会い作りの場を作る。移住支援金や就労相談などの移住支援の充実。福祉としては世代間の交流の場の創設。熟年世代のスポーツ、芸術での生きがいづくりの応援、福祉に関するワンストップ窓口、福祉丸ごと相談室の創設、支援のネットワーク化。県道あわら丸岡線に大型商業施設の誘致。

中川

教育に関して、学校のクラスが少ない。小学校は3校に（芦原、金津、北潟）。1km以上のスクールバス運行。教育の無料化、奨学金。昔ながらの地域の締め付けにより息苦しさをを感じる。区の色々な仕事は市で請負い、祭りなどはなるべく外注し市民の負担を減らす。現在の区長が全て高齢男性。古くからの風土を変えたい。

佐々木

住み、産み、育てたいと思う街づくり。これまで婚活イベント、出産祝い金、第二子以降のこども園料の無料化、小中学校スクールバス無料化。高校生までの医療費の無料化、ひとり親世帯への支援の充実などの子育て支援を充実させてきた。今後、婚活や結婚後の新生活支援の充実、多子世帯への支援、子育て支援センターの充実、全天候型の子供の遊び場の整備。学校施設の整備、オンライン学習の充実。

健康長寿の街づくり。健康で、長生きできるようフレイル予防の推進に取り組んできた。地域包括ケアシステムや乗合タクシーの充実させてきた。今後さらに高齢者や障がい者、生活困窮者に対する重層的な支援体制の充実を図る。高齢者や子供の見守り体勢も大切。



テーマ2

少子高齢化社会に向けた対策について

中川→佐々木

学費無料は現在5～15歳まで。18歳までに対象を広げても経費は3.7億円。

子ども手当は4.5億円。そのため子ども手当より教育費無料を優先するべきではないか。

佐々木

予算には限りがあるので、全てができるわけではない。何を優先するべきかはよく考えないといけない。給食無償化についても現実的には難しいと考える。

中川

高齢社会において自動運転が発達している。導入が可能であれば高齢者にとって住みやすい街にできると思う。

佐々木

高齢者の問題。一人暮らし、高齢者のみの世帯が増えている。DXを進め最適化された医療、福祉のサービスを考える時代になっている。



テーマ3

農業、商業の再生について

中川

現実的にスマートシティ化。エコ、デジタル化、災害対策、メガファームを作る、スマート農業、若い人を。買い物ができない。ファーストフードがない。せめてそれぐらいは揃えたい。デジタル部を創設、マイナンバー100%、電子決算、電子投票などをできるようにする。再生エネルギーを今の3倍に。洋上風力発電などのエコエネルギーを進める。フードロスの解決、災害に強い街づくり。

佐々木

農業振興、農村集落の活性化が必要。町村ときめきプランを作り各集落の支援をしてきた。若者に魅力ある農業をやっていくためにはスマート農業が重要、県外企業や県立大学、県、JAなどと協力して進める必要がある。稲作に限らず園芸関係でも同様にやっていく必要がある。コロナ禍により米価が値下げ。独自の補助金を計画。獣害対策、これまでも強化してきたが引き続き対策していく。商工業関係。プレミアム付き商品券や事業者応援給付金行なってきたが、これからもニーズにあった支援必要。空き店舗の活用、産業のデジタル化。DX推進に向けた取り組みをしていく。

森

農業 農家が安心して農業経営に取り組めるよう地産地消の推進、コメ消費の拡大、奨励金の維持、充実させる。新たなブランド野菜の模索。商工業においてはDXの推進を前提にキャッシュレス決済の導入、Wi-fi環境の整備支援を検討。観光とのネットワーク構築。働きやすく誰もが幸せになれる街の実現に取り組みたい



テーマ3

農業、商業の再生について

中川→森

デジタル化が大事とのことだが、具体的に何が一番大事で第一優先は何か。

森

小規模事業者へのデジタル化の支援をしたい。

中川→佐々木

マイナンバーカード所得100%への推進が重要だと思う。佐々木市長は現在苦労されているところだと思うが、所得率を上げるためにどのように取り組まれているのか？

佐々木

力一杯取り組んでいる。2年前には県内でもワースト3位ほどだったが、現在はトップ3ぐらい。現時点で50%を超えていて、今年度内に60%を超えを目標にしている。各地区に出向いて丁寧に説明をしている。

中川

マイナンバーカードを持っていないと不便な状態にするしかないと思う。カードがないと色々なサービスを得られない状況にすることで普及促進したい。例えば電子投票など。マイナンバーがないとそのようなサービスが受けられない状況にすることで普及させることと、マイナンバーでできるサービスを増やしていくことをしっかりやっていきたい。



アンケートで印象に残ったこと

- 1 あわら市は好きですか？あわら市の好きなのところはなんですか？
- 2 市民が行政に関心を持ち、参加しやすい、参加できる市政の仕組みを作って欲しい

佐々木

もちろん大好き。農家に生まれ小さい時から仲間たちと農作業に関わり汗を流してきた。今も現役であり、大地からパワーをもらっている。あわら市には豊かな自然、伝統、祭りなど心が癒されるもの、仲間と喜びを共有できる時間、場所がある。助けあいの精神が残っている。人が優しい。五感で楽しめる食、コメ、野菜、果物も豊富。福井を代表する癒しの湯である芦原温泉もある。これらは全てあわらの宝。未来に引き継いでいく必要がある。色々なあわらの素材が大好き。市民が行政に関心を持ち参加しやすい行政については、これまでいろんな各団体の話を聞いたり、各地区の祭りなどに積極的に参加し色々な意見をもらった。残念ながらコロナ禍でそういった機会が少なくなってしまった。頂いた意見から、例えばデマンドタクシーが不便なところの改善など色々と市政に反映させてきた。今後そういった意見交換する場をもっと拡充する。特に若い人たちの意見をもっと吸い上げていかないといけないなというのを反省点として思っている。そういった反省点がある。細呂木小学校だったと思うが、6年生から市長への提言を頂いた。子供達の意見は鋭いところもあって、ためになることもいっぱいあった。そういう場をもっと設けることや、中学生などに市政に関心を持ってもらうためのこども議会をやるとか、そういった機会をもっと作っていく。

森

大好き。あわら市には海があり、山があり、川があり、湖という美しい自然がある。さらに温泉という恵みがある。このような自然と資源を持っている市は他にはない。人々が素朴で温かく、地域コミュニティがしっかりしていて助け合いの精神が根付いている。あわら市で生まれ育ったことを誇りに思っており、なんとか役に立ちたい、恩返しをしたいと考えている。市民が参加しやすい市政の仕組み、重要政策の決定に際し、市民の意見を聞く制度として、パブリックコメント（デズ？聞き取れず）がある。この制度をしっかりと運用していく。政策検討の委員会を作る時には、委員を市が選ぶのではなく、公募制にするとか、オープン参加のワークショップにするなどの方法で市民の意見を聞き、一緒に街づくりを進めたい。市民からの意見はHPでいつでも受け付ける。



アンケートで印象に残ったこと

- 1 あわら市は好きですか？あわら市の好きなのところはなんですか？
- 2 市民が行政に関心を持ち、参加しやすい、参加できる市政の仕組みを作って欲しい

中川

この質問は大変悩んだ。千葉から来たので、今のあわらは自分の理想からはかけ離れている。好き嫌いの問題以前。自由と多様性が少なく、デジタル化や、エコ、災害対策で弱い。あわら市は十分に力を発揮している市ではないと思う。一番の原因は、区のあり方にあるように、長老社会、男尊女卑の文化にあると思う。みなさん怒ると思うが、僕が移り住んで来た時に最初に思ったのが、年をとった男性が力を持っていて、女性が前に出ない、縁の下の力もち。全てのことがそれで動いている。年取った男性にとっては居心地が良いと思う。それ以外の若者、女性にとっては非常に息苦しいと思う。それを改革するためにここにいる。9割のあわら市民は、ある程度の息苦しさを感じているところはあると思う。

公共交通機関が都市みたいでない。若いうちはいいが、年をとって自分で運転できなくなった時にどう移動するんだろう。そういった不安がある。75歳以上の無料タクシー。今3000万円のデマンドタクシーを2000万足してできると思う。自動運転もやるべき。他にも当たり前のことができない。ファーストフード、ショッピング、そういったものが足りない。そういったものを持ってこないと基本的な生活を維持できない。

好きな点は、日本酒が好きなので、歩いて行けるところに飲める店がいっぱいあるのは良い。選挙については古臭い体制を打破しないといけない。各地区を回って、その地区の方針は区長含めた数人で決める。これは民主主義ではない。基本的に一人一人が考えた選挙にするべき。市民部を作り、デジタル化をして電子請願、電子投票をする。各人が自分の考えをもち行動する。そうしなければ区の支配は続く。



アンケートで印象に残ったこと

- 1 あわら市は好きですか？あわら市の好きなところはなんですか？
- 2 市民が行政に関心を持ち、参加しやすい、参加できる市政の仕組みを作って欲しい

中川→佐々木、森

あわら市の嫌いなところはあるか？どのような点か。

佐々木

嫌いなところは特に浮かばない。

森

嫌いなところはない。残念だと思うところは、街の中の賑わいが足りない。隣の坂井市と比べてしまうからかもしれない。ただ、それに負けない自然と温泉はある。これからは市民、他のところから来ていただく、そういう施設を、芦原丸岡線に引っ張ってきたい。これからのあわら市発展の鍵だと思う。

佐々木

住んでいると足元が良く見れないところがある。日経ビジネスか何かで、800ほどある市の中で住み良さランキングがあって。4年前は156位。昨年は27位まで上がった。でもその良さは、住んでいると当たり前になっていて、他の街から比べると良さがわからないというところがあると思う。その良さも含めて市民に自覚してもらって、そこをベースにもっともっと良くしていこう、ふるさとを高めていこう。それが多くの人に来てもらうことにつながると思う。そういう取り組みがこれから非常に大事ではないかと思う。

中川

患者さんと話していて、高校まであわら、大学で県外に出て、そこから帰ってくる人はほとんどいない。その一番の理由は仕事がない。遊ぶところがない。仕事を増やすといっても金沢などと同じようにすることはできない。スマートシティ的なところ、メガファームやスマート農業などで若者を増やす、仕事を増やす。商業、工業といった定型的な仕事ではなくて、スマート農業など、そういった仕事で増やすしかないと思う。若者が好きだったらあわらに戻って来ているはず。育った場所なんだから、大好きなんだろうけど、何かしらあるから戻ってこない、そこを考えないといけないと思う。



マニフェスト、これからのあわら市に対する想い

森

行政とは、市と市民が一体となって作り上げていくものだと思う。中でもその原動力となるのは市民一人ひとりの力。市民のみなさんが活動しやすく安心して暮らすことができる環境を整えることが行政であり、市長の役目であると思う。私は一経営者である。事業を経営していく上で大事にして来たことはお客さんとしっかり話をし、その仕事に満足してもらうこと。そういった意味で、市民の皆さん、職員の話をよく聞き自分の中で十分咀嚼をして決断するリーダーでありたい。風通しの良い市民目線の市政運営、これがあわら市に今求められていることだと思う。しないで見受けられる食い違いや分断を解消し、市と市民、地域と地域、人と人が故郷を愛する思いを元につながっていくことこそ大事だと考え、「つながる」をテーマに政策を訴えていきたい。私たちあわら市民は、海山川湖、歴史と文化、風土を大切にしながらこの街を興し、この街とともに歩いて来た。みんなが力を合わせて未来に繋げていかなければならない。私と一緒にあわら市の元気を明日に繋げていきましょう。

中川

市民の皆さんには自分の頭で考える癖をつけていただきたい。偉そうに聞こえるかもしれないが、集団が指示に従い行動する、先の戦争と同じ構造である。悪いと思っても周りの空気に流されて周りと一緒に行動する。これが間違っている。そうならないように各人、自分の頭で考えて判断していただきたい。選ばれた市長は、ある利益集団の代表であってはならない。市長は税金をとって、皆さんの生活に影響を与える。ある集団の利益を尊ぶリーダーではいけない。ある区で、また財産区の上水道で、市に比べて不公平であること。小学校統合の話、一部の人のにとっては不快だと思う。私に対して選挙中に無言電話や誹謗中傷いっぱいある。サイレントマジョリティーのために働くのが市長の仕事であって、90数パーセントの何も言わない人たちの利益を代表して言うことが仕事であると思っている。それ（その信念）に従って、今まで（政策を）公表して来た。今まで出して来たチラシもそれに従って何の忖度もなく行って来た。後悔はない。そうやって生まれたリーダーを情熱を持って迎えていただきたい。皆さんも一緒にやっていただきたい。テキトウな判断をする市民からはテキトウな政治家しか生まれえない。テキトウな政治しか行われえない。あわら市が古臭くなっているとしたら、それは市長や議員、市役所のせいではない。市民が選んだ人がやった結果がこれなんだから、つまるところ、市民の程度を示した街並みしかできないはず。自分の頭でよく考えて自分で判断してください。それしかあわらが良くなる方法はないと思う。今回の立候補、世間的に見たらおじいちゃん三人。本来ならもっと若い、あるいは女性が出てくると良い。ぜひチャレンジしてほしい。市長になったら若い人、できれば40代以下の若い人を後継者にしたい。



マニフェスト、これからのあわら市に対する想い

佐々木

少子化、高齢化が進み地域の10年先、20年先をしっかりと見据えて、誰もが笑顔で元気に暮らす、誰もがときめくあわら市を実現したいと先の選挙で勝利した。就任以来様々な課題に全力で戦って来た。その間多くのときめきのタネを撒いて来た。今それが少しずつ芽吹き始めている。今後しっかりと色とりどりの花が咲くように市民の参画を得ながら職員とともに全力で取り組む所存。市民の幸せのためにあわらの未来を切り開いていく。誰もが自分らしく輝けるあわらを作っていきたい。徹底した現場主義、実行力、スピード感、これまで培ったネットワーク。市民の皆様の積極的な参画を頂きながら、市民主役の街づくりを実現したい。新幹線の活用、DXによるスマートシティの実現、市民活動の活発化、こういったことを柱としてこれまでの施策を継続、さらに磨きをかけていきたい。

